

# まちを歩

人権の  
かおりを求めて

## 第8回

### 箕面市萱野 かやの 萱野地域界限



(写真①)

箕面市の萱野地域を歩くと、街角デイサービス「よってんか」、食の福祉サービス「おふくろの味」、コミュニティレストランなど、人にやさしい「人権のまち」、そんな雰囲気漂わせる。(=写真①) 同地域では、「福祉の視点」を中心に据え、お年寄りから若者、子どもまで誰もが安心して豊かに暮らせる「まちづくり」をめざし、さまざまな実践が展開されている。

まちづくりの中心的役割を果たしているのが、「きたしばお宝発掘隊」(北芝地域まちづくり協議会)。(1)地区の実態把握・テーマ発見(2)まちづくり活動体制の整備(3)住みつづけることのできるまちづくりのテーマをもとに活動を展開しており、日頃の暮らしの中から気づく、地域住民の“つばやき”拾いを積極的に推進している。

その中で、福祉については、地域の高齢化率の高さから、「安心して生活できるコミュニティづくり」(安心居住のコミュニティケア)の必要性を提案。「萱野地域福祉サービス検討委員会」を設置し、ハード整備の住宅政策づくり活動をはじめ、「住宅の福祉化」など、萱野地域全体を視野に入れた「萱野地域福祉計画」の策定を図る。

さらに、NPO法人「暮らしづくりネットワーク北芝」では、行政機関や幼稚園・保育所・学校、企業、NPOなどとの連携を図り、周辺住民との交流、自主・自立の分野で協働しながら、地域の「福祉化」を進める。同ネットワークは、地域の活性化を図るためのツールとして、地域通貨「芝菜」も発行。「芝菜」が使えるコミュニティレストラン(=写真②)には老若男女が集い談笑する。

「きたしばお宝発掘隊」事務局長の丸岡康一さんは「『であい・つながり・げんきになろう』を合い言葉として、北芝地区に特化した政策を出すのではなく、萱野地域全体を視野に入れた『地域の福祉化』政策を検討、具体化し、萱野地域の誰もが安心して豊かに暮らせるまちづくりを目指して、現在、取り組んでいます」と話している。



(写真②)

そうぞう

12

2005.3\*No.12

## 編集後記



●…前々号(10号)の「人権随想」欄で執筆いただいた毎日放送ラジオ局報道部記者の今道彰さん。「人権関係の取材では『まず当事者のことを知ることが大切』。出会ううち、「知る」というのは、知識を得ることではなく、体感することだと感じた」。 「子どもたちにも語ってほしい…。ある公立小学校からの依頼です。

●…今回の企画特集。「教育」というと「学校教育」をイメージしがちですが、今や「生涯学習時代」。学校だけでなく、地域・家庭も含めて、社会全体で「人権教育」に取り組んでくることが、「人権文化」の構築につながります。

## 「平わ」

東大阪市 小学三年生(当時)  
せいけ だいむ  
清家 大夢

平わアニメフェスティバルに行った。

「せんそうと平わ」

ぼくは、「せんそう」はしっていたけど、

「平わ」ってなんだろうと思った。

じてんをひらいた。

「せんそうや心配ごとのない、おだやかなじょうたい」

ぼくは、「日本は平わだ。」と言った。

お父さんは「日本は平わぼけだ。」と言った。

お母さんは「日本は本当に平わだと思う？」とぼくに聞いた。

テレビを見ていると、人が人をころしたり、お金をめすんだり、いじめをしたりしていることがニュースになっている。

ぼくは、やっぱり「平わ」じゃないと思った。

今のぼくには「平わ」になるにはどうしたらよいかわからないけど人のいやがることはしないでおう。

2003年度人権啓発詩・読書感想文募集事業(大阪府・大阪府教育委員会など)の入選作品より